



加藤 眞悟

観世流準職分、能楽協会会員
加藤眞悟明の会主宰
昭和三十二年平塚生まれ、学生時代から
能観世流を学び、卒業と同時に梅若万三郎

家に内弟子として入門。
故二世万三郎、三世万三郎に師事
昭和六十年より梅若研究会のシテを勤める
平成六年から毎年平塚八幡神事能で演能

能の世界へ

能の世界へ

氏の正妻、葵上が物の怪に悩まされて死線をさまよいます。弓の名手が弓弦を響かせると、六条御息所の生霊が葵上に打ちかかる姿があらわれ、ついには鬼女と祈祷師との対決となります。最後にはどうとう妄執にかられた生霊は、祈り伏せられ、正気を取り戻すというあらすじです。

今日のわたしたちは、西洋文化に囲まれて毎日過ごしています。能が完成された室町時代からみると、生活様式はまったく様変わりしました。着物をふだん着ることもありませんし、インターネットや携帯電話があたりまえになり、日々の過ごし方や考え方で、欧米との差を意識することが少なくなったのではないのでしょうか。そんななか、海外で禅や武士道がブームになり、能が世界無形文化遺産の第一号に認定されるなど、国外から私たちの文化が見直されている様子が伝わってきます。そして、わたしたち自身が日本文化をまるで新しいものをみるように見えています。今、能が人の心に訴えるのは、なぜなのでしょう。当時の武家文化の価値観のなかで完成された能や茶道には、六百数十年を生き続け、今なお見直される何かがあるのでしょうか。わたしたち日本人の心は、こうした古くからあるものに支えられているのだと思いますが、身近にあって忘れていたこともたくさんあるようです。そうしたことを思い出し、昔の人の願いを聞き届けたいと思います。禅問答で知られる禅の思想は、言葉や理屈で説明されることを嫌うそうです。わかつつもりになるだけで、ほんとうの理解からは遠ざかると考えられています。能も、やはり、理屈で説明するものではなく、日本人の感性に響くものだと思います。ぜひ皆さんの身体全体で、能の世界を体験していただきたいと願っています。



まず、わたくしの能楽との出会いをお話させていただきます。

わたくしの実家は平塚の松風町です。東海道の宿場町として栄え、かつ長い歴史に培われた文化をもつ平塚に生まれ育ちました。大学に入学してすぐ、友人に誘われるままにはじめて能を拝見したとき、こんな様式美の世界があったことに衝撃を受け、その後、同好会に入会し、能楽の勉強を始めました。幸い、現在の梅若万三郎先生から直接のご指導をいただくことができ、この出会いが能楽の世界への入門の大きなきっかけとなりました。現在、東京を中心に舞台への出演と謡曲、仕舞をお教えるなど、忙しく毎日過ごしております。

出会い、縁石と申しましょうか、いつも一人でも多くの方に能楽との出会い、縁石を結んでいただきたいと思います。そんな普及の機会の多くあることを願っておりましたとき、内弟子修行のあけた折に、平塚八幡宮様より神事能を舞うご縁を頂きました。また平塚市文化財団と実行委員会の主催により、平成16年に、レクチャー形式の「はじめての能」が行われました。それに引き続き、平成18年「湘南ひらつか能狂言」では、鑑賞に重きをおいた形式に発展して「船弁慶」をご覧頂きました。公演の成功には、実行委員会の方々のお力も大きく、市民の方々が少しずつ能鑑賞に興味をもつていただけようになりましたことを感謝しております。また、平塚には能面師の高津紘一氏と狂言師には大塚出氏がいらっしゃいます。同郷の方々が舞台を作ることができましたことも大きな喜びでした。

こうして平塚のみなさんに神事能では「祈り」の面を感じていただき、湘南ひらつか能狂言では「知る愉しみ」を味わっていただけようになりました。このたびの12月8日には第2回「湘南ひらつか能狂言」が開催されます。

今回の番組、「葵上」は、「源氏物語」のお話です。光源

第2回湘南ひらつか能狂言

開催日時／平成19年12月8日（土）
14：00開演

能「葵上」梓之出、狂言「棒縛」



会場／平塚市中央公民館大ホール
入場料／自由席 一般2,000円、高校生以下1,000円（*指定席は完売しました）
入場券取扱／市民センター、山野楽器平塚ラスカ店、ヨネザワ楽器、くすの木、ほか